PDF-XChange Viewer Click to buy NOW! www.docu-track.com

――ところで、進化論の原典ともいえる、ダーウィンの『種の起源』につわって、こんな話があります。この書物は、一八五九年の暮ですが、すさまじいまでの嵐を呼びおこした

今から六千年前に、神は、第1日目・光あれ、第2日目・大地あれ、3日目・海と陸地を分かち、4日目・太陽と月を作った。6日目に土から人間(アダム)を作り、イブはアダムの肋骨から作った。

池田　むろん、批判の嵐でしょうね。それまでのキリスト教の教義の一つであった、人間は天地創造の最後の日つまり第六日目に、神によって造られたという説に、真っ向から反逆したものだったのですから。

旧約聖書の〈創世記〉には「神はまたいわれた、水は生き物の群れでみち……、地は生き物を種類にしたがっていだせ……、われらに似せて、われらの像のごとく人をつくりたまえり」とあります。ヨーロッパの人びとは、この創世記にある現象が、突如として起ったのは、紀元前四〇〇四年だと信じていたという。

――紀元前四千年と、現代科学が示す三十億年とは、ずいぶんちがいますね。

池田　しかも、十七世紀の中頃には、一人の大主教が、念のために、旧約聖書を読み直して、たしかにこのとおりだと確かめ、不動の確信をいだき直した